

算数科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|---------------|--|--|---|---|---|---|
| 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ○たし算・ひき算の意味や計算の仕方をよく理解して、生活の中で使っている児童がいます。 ○たし算やひき算では具体物から半具体物のブロックに置き換えて数の構成を理解することができました。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの児童が数の相対的な大きさについて理解することができています。 ○長さやかさ、時間等の単位の関係理解が不十分な児童がいます。 ○ものさし、定規の使い方が身に付いた児童もいますが、正確にはかかれなかったり、真っ直ぐに線を引けなかったりする児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○量感がきちんと身に付いている児童とそうでない児童がいます。 ○計算の順序理解が不十分な児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値を上回っています。 ○数と計算の理解は良好ですが、あまりのあるわり算を苦手とする児童が見られます。 ○図形(円や三角形)の基礎的な内容はよく理解できています。 ○棒グラフの読み取りはよくできています。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値を上回っています。 ○数と計算の理解は良好ですが、小数のかけ算やわり算を苦手とする児童が見られます。 ○図形に関する学習の理解は良好ですが、作図を苦手とする児童が見られます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値とほぼ同じです。 ○面積や体積の求積など、図形の基礎的な内容を理解できている児童が多くいます。 ○分数や小数の計算の正確さが不十分な児童がいます。 |
| 思考力, 判断力, 表現力 | <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにあるものの長さに着目して、直接比較や間接比較、任意単位による長さの比べ方を考えたり、任意単位により長さを数値で表したりすることができています。 | <ul style="list-style-type: none"> ○新しい課題に対して、既習の考えを用いて図・式・答えを導くことができます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○立式に使わない数字の入った文章題で、間違った立式をする児童がいます。 ○自分の考えを論理的に説明することができる児童とそうでない児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値とほぼ同じです。 ○計算は正しくできますが、文章題を解くときに生かしていない児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値を大幅に上回っています。 ○180度を越える角度や複合図形の面積など、基礎的な事柄をもとに考えることのできる児童が多くいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値を下回っています。 ○計算は正しくできても文章問題を解くときに生かしていない児童がいます。 |
| 学びに向かう力, 人間性 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算を楽しみながら意欲的に取り組んでいる児童が多くいます。 ○問題をよく読まずに取り組んだり、正しく理解できなかったりする児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算や測定を楽しみながら、意欲的に取り組める児童が多く見られます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算や測定を楽しみながら、意欲的に取り組める児童が多くみられます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値とほぼ同じです。 ○数学のよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとする児童が多く見られます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値とほぼ同じです。 ○数学のよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとする児童が多く見られます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○目標値下回っています。 ○学習したことを生活や学習に活用することが苦手な児童が見られます。 |

2 課題と改善策、検証方法

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|------|---|--|---|---|--|--|
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○問題をよく読まずに取り組んだり、正しく理解できなかったりする児童がいます。 ○たし算・ひき算をする時に指を使って、数の増減を確認して計算している児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○たし算は定着していますが、ひき算は定着が不十分な児童がいます。 ○新しい課題に対して、既習の考えを用いて解決することができる児童とそうでない児童がいます。 ○長さを測る、直線を引く等、定規の扱い方が不十分な児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「時間」「長さ」などの量感がきちんと身につけていない児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○けた数がそろっていない小数のたし算やひき算の理解が不十分な児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○複合図形の体積の求積や小数のわり算、小数倍の意味の理解が不十分な児童がいます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○対称な図形の理解が不十分な児童がいます。 ○分数や小数で、計算の仕方は理解できていても、約分をし切れず、正解できない児童がいます。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ○身近な題材を教材として取り上げて関心をもたせ、進んで学習に取り組めるようにします。 ○問題の中で分かっていること、聞かれていることを確認します。 ○ブロックを使い、数の合成・分解の理解が深まるようにし、反復練習していきます。 ○計算ドリルやタブレットドリルなどを取り組むようにし、反復練習していきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身近な題材を教材として取り上げて関心をもたせ、進んで学習に取り組めるようにします。 ○一人一人が十分に考える時間を設定し、対話や話し合う場を設定します。 ○日常生活の中で、長さやかさ、時間などの読み取りや単位の変換を繰り返していきます。 ○ICTを活用し、自分の考えを書き表す時の見本を具体的に示します。 ○宿題やタブレットドリルなどを取り組むようにし、既習事項を復習することで、学習の定着を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身近な題材を教材として取り上げて関心をもたせ、進んで学習に取り組めるようにします。 ○タブレットドリルを使い苦手な問題等を繰り返し取り組むようにします。 ○実際に測定したり操作したりする活動を多く取り入れて、時間や長さ、重さなどの量感を身に付けられるようにします。 ○習熟度別少人数指導を行い、児童の実態に応じた授業を展開することで、数量や図形についての技能を伸ばしていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身近な題材を教材として取り上げて関心をもたせ、進んで学習に取り組めるようにします。 ○タブレットドリルを使い苦手な問題などを繰り返し取り組むことで理解を深めていきます。 ○テストの復習や家庭学習を活用し、理解できるようにしていきます。補習や個別指導も行います。 ○習熟度別少人数指導を行い、児童の実態に応じた授業を展開することで、数量や図形についての技能を伸ばしていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身近なものを教材として取り上げて関心をもたせ、進んで学習に取り組めるようにします。 ○タブレットドリルを使い苦手な問題などを繰り返し取り組むことで理解を深めていきます。 ○既習事項を確認し、既習事項を活用して問題を解決する能力を養います。 ○習熟度別少人数指導を行い、児童の実態に応じた授業を展開することで、数量や図形についての技能を伸ばしていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身近なものを教材として取り上げて関心をもたせ、進んで学習に取り組めるようにします。 ○タブレットドリルを使い苦手な問題などを繰り返し取り組むことで理解を深めていきます。 ○既習事項を確認し、既習事項を活用して問題を解決する能力を養います。 ○習熟度別少人数指導を行い、児童の実態に応じた授業を展開することで、数量や図形についての技能を伸ばしていきます。 |
| 検証方法 | <ul style="list-style-type: none"> ○定期的に文章問題に取り組み、問題を正しく読み取れているかどうか確認していきます。 ○定期的にノートを回収して、児童の考え・学習を確認します。 ○タブレットによるステップ学習の活用、ワークテストで確認します。 | <ul style="list-style-type: none"> ○定期的に考え方を書いたノートを回収して、具体的な書き方を繰り返し指導します。 ○ドリルやプリント等で定期的に単位の読み書きの定着を確かめます。 ○タブレットによるステップ学習の活用、ワークテストで確認します。 | <ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリルやタブレットドリル、ワークテストなどで確認します。 ○定期的にノートを回収し学習内容を理解できているか、計算の間違いがないか等を確認します。 | <ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリルやタブレットドリル、ワークテストなどで確認します。 ○授業の中で、既習事項を確認する場面を設け、繰り返し内容を確認して理解を深めていきます。 ○定期的にノートを回収し、数量や図形についての技能が伸びているか確かめます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリルやタブレットドリル、ワークテストなどで確認します。 ○授業の中で、既習事項を確認する場面を設け、繰り返し内容を確認して理解を深めていきます。 ○定期的にノートを回収し、数量や図形についての技能が伸びているか確かめます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリルやタブレットドリル、ワークテストなどで確認します。 ○授業の中で、既習事項を確認する場面を設け、繰り返し内容を確認して理解を深めていきます。 ○定期的にノートを回収し、数量や図形についての技能が定着しているか確かめます。 |